

**製品名: CaMKII $\alpha$ / $\beta$ / $\delta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07886**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	CAMK2A CAMK2A; CAMKA; KIAA0968; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit alpha; CaM kinase II subunit alpha; CaMK-II subunit alpha; CAMK2B; CAM2; CAMK2; CAMKB; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit beta; Ca
別名	
遺伝子 ID	815/816/817
SwissProt ID	Q9UQM7/Q13554/Q13557
免疫原	抗血清はヒト CaMK2 $\alpha$ / $\beta$ / $\delta$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 271-320

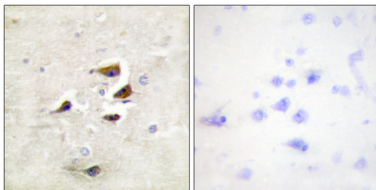
**背景**

この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリー、および Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサブファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸シナプス可塑性の様々な側面において極めて重要である。このカルシウムカルモジュリン依存性プロテインキナーゼは、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $\delta$ の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子によってコードされる $\alpha$ 鎖は、海馬の長期増強（LTP）および空間学習に必須である。このタンパク質は、カルシウムカルモジュリン（CaM）依存性活性に加えて、自己リン酸化を受けることでCaM非依存性活性を示す。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが同定されている。[RefSeq提供、2008年11月]、触媒活性：ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節：Thr-286の自己リン酸化により、キナーゼはカルモジュリン依存状態からカルモジュリン非依存状態へと切り替わります。、機能：CaMキナーゼII（CAMK2）は、中枢神経系における主要なキナーゼであり、長期増強および神経伝達物質放出に関与していると考えられています。興奮性シナプスにおけるNMDARシグナル伝達複合体のメンバーであり、AMPAのNMDAR依存的増強およびシナプス可塑性を制御すると考えられています。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。CaMKサブファミリー。、類似性：1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在：シナプス後脂質ラフト。、サブユニット：CAMK2は、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $\delta$ の4つの異なる鎖から構成される。これらの異なるアイソフォームは、8~12個のサブユニットからなるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素に集合する。BAALC、MPDZ、SYN1、CAMK2N2、SYNGAP1と相互作用する。、

## 研究分野

ErbB\_HER;カルシウム;卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T細胞長期増強;神経栄養因子;嗅覚伝達;GnRH;メラニン形成;神経膠腫;

## 画像データ



CaMK2  $\alpha/\beta/\delta$  抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。